二松學舍大學
父母会報

平成５年５月10日創刊
平成26年３月31日発行
（第84号）

二松学舍大学父母会
（本部・事務局）
東京都千代田区三番町6番地16
二松学舍大学学生支援課

題字は
故 観山貞廣常吉先生書

卒業を祝す

父母会会長　三輪　秀彰

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ご父母およびご家族の皆さま、おめでとうございます。この日をお迎えになり、感慨はいかほどかとご拝察いたします。

卒業生の皆さんは、四年間の学生生活において、社会に出てからは出来ないような試行錯誤を暖かい目で見てもらい、社会人としての修練と貴重な経験を積み、そして、学ぶ術と道徳的、応用的能力を身に付けてこられたことと思います。長年に及ぶ景気の低迷から脱却への兆しが見えてきた今こそ、それらの全てをぶつけ、社会が欲している人材とならんことを祈っております。

「賢を見ては斉しからんことを思い、不賢を見ては内に自ら省みる」という孔子の言葉があります。常に慢心にならず、優れた人物を見倣い自ら反省する態度を忘れないで欲しいと思います。また、「君子は言に訥にして行いに敏ならんことを欲す」とも孔子は言っています。学徳ともに優れた者は、口数少なく、行動の実践には素早く対応しようと心掛けるものだということです。これらは社会人として必要なことです。是非実践して頂き、力を蓄え、チャンスを掴み取って下さい。

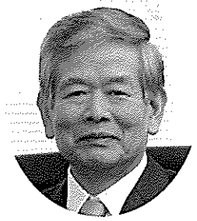
そして、忘れてはならない一番大切なことがあります。それは心身の健康です。趣味を見つけ、友を作り身体を動かし、毎日を楽しく過ごすことです。ライフプランを立て余裕ある生活をエンジョイして下さい。

今から、希望に満ちた新しい日々が始まります。「二松學舍大学で学んだ卒業生」としての誇りを忘れず、相手を敬い、常に切磋琢磨し、知恵と工夫で、実りある人生を切り開いて行って欲しいと願っております。

末筆になりましたが、卒業生のご父母の皆さま、二松學舍大学父母会事業にご理解とご協力を頂きまして誠にありがとうございました。そして、二松學舍大学の教職員の皆さまにおかれましては、子供たちのために公私にわたり親身なご指導を賜りましたこと深く感謝申し上げます。

「解のない問題にどう立ち向かうか」

理事長　水戸英則



卒業生、修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

さて、皆さんがこれから出て行く社会は、沖縄基地、福島原発の処理、TPP、日中、日韓関係などすぐに解決方法の見つからない問題が山積しております。

皆さんの大学時代での勉強は、一つの正解を選びだす勉強であったわけですが、これからは、正解のない問題を、皆さんの知識、能力等をもって、正解の有る方向に導いていく力が必要になります。そのためには、先ず自立した個人としての立場を固めることが基本であり、次の三点を頭に置くことが必要です。

第一点は、健康第一です。社会人になり病気になると、周りの人に迷惑がかかります。また、自分自身の長い人生を歩き通すには、健康を維持することが重要であり、これは自己管理の問題です。運動、読書、音楽等の気分転換を身に付けて、仕事上の心理的な疲労を蓄積させないことが肝要です。

第二点は、相手の立場を考えることです。自分のできる事、親切とか思いやりを、自分のペースで他人に示せばよいのです。相手の立場を考えた上で、自分の立場、主張をはっきりさせることが肝要です。

第三点は、自分自身を常日頃磨く精神を忘れないことです。二松學舍精神である、「道徳心を基に、倫理観を持って行動する」ことを基本に、自分を深め、人間の幅を拡げる努力を常にすることです。仕事上のプロになることは勿論、幅広く本を読むことです。読書は心のひだを深くし、人間の幅を広げます。

以上三点は、解のない社会で生き抜いていく上での基本条件です。そして、これらを踏まえて、しっかりと仕事をし、収入を得て、独立した家計を営む、その上で、仕事や社会的活動を通じて、日本や世界を良い社会にすることに貢献していく人材として活躍して欲しいと思います。

「感謝の心をもて」

学長　渡辺和則

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんはこの度の卒業の日を迎えるまでに、皆さん自身の努力と勤勉と忍耐に負うところが多いのは言うまでもないことですが、皆さんの努力だけでこの日があるのではありません。皆さんと喜びを共にし、苦労を分かち合ってきたご家族の方々や皆さんの教育のために力を尽くされた先生方、そして共に語り励まし合った友人や後輩たちに感謝してください。

感謝の心は人間心情の中で最も貴いものです。感謝の心をもつ人はその人自身のみならず、その人の家族や友人など、周囲の多くの人たちを幸福にします。皆さんには感謝の心をもつ人であってもらいたいと願っています。

皆さんはいよいよ社会に出るわけですが、好スタートを切れる人とそうでない人がいると思います。好スタートを切れなかったから、その後の人生もうまく行かないというものではありません。始めに苦しむ者はあとで笑うということがよくあります。逆に、始めに幸運をつかんだ者があとで大きな失敗をすることもよくあります。また就職はしたものの、思いがけない職場に配属されて、こんなはずではなかったと思う時があるかもしれません。期待していたような職ではないと後悔することがあるかもしれません。しかし悔いているだけでは人生は拓けません。自らに一番身近な毎日の為すべきことを義務として為し、そうして将来よい時が来るのを楽しみに待つことです。

最後に、皆さんの社会人第一歩の餞に、「菊根分け、あとは自分の土で咲け」（吉川英治の句集より）という言葉を贈ります。皆さんのご家族のお喜びもさぞやと思います。ご家族を大切にし、健康に留意し、ご活躍ください。

皆さんのご健闘をお祈りします。

結びつき

文学部長　江藤茂博

これから社会へと向かわれる卒業生の諸君、また新たな領域できっと活躍されることと思います。まずそのことをお慶び申し上げるとともに、皆に大きく社会の力になっていただくことも期待しています。この混迷する社会状況のなか、君たちは必ずや君たちらしい生き方を見つけることと信じます。そして、そのことがこの社会をよりよく動かしていくことになるはずです。学生時代は短く、あっと言う間に通り過ぎるものですが、この二松学舎での月日は君たちに固い結びつきをもたらしたことでしょう。この国に一億もの人間がいても、さらに多くの事物があっても、少しでも縁ある人たちや事物というのは、さほど多く生まれるわけではありません。そうしたなかで、皆は、この二松学舎という学びの共同体のなかで同じ時間を過ごすことができたのですから、大学にも仲間にも大きな縁があったと言えるでしょう。そして、これからも、学年が進むように、自分を一歩先に進ませ、ゼミで学ぶように、新しい知識にどん欲になってください。また、学生時代にそうであったように、この社会の中で文学部の仲間たちが、活躍する場面もあれば失敗する場面もあることを、喜ぶ時があれば悩む時もあることを、イメージしてみてください。もし会いたくなったならばお互いに声を掛け合ってください。そうした結びつきは、きっと社会全体を大きくそして明るく変えていくことになるでしょう。社会で生きていく原点、よりよい社会を生む方策のプロトタイプは、すべて私たちが経験した学びの共同体に在ったのです。これからは、その応用として、この社会で自分の信じる道をしっかりと歩んでください。

最後になりますが、君たちの卒業を祝し、新たな一歩がすばらしいものであることを祈り、おめでとうという言葉で結ばせていただきます。

ご卒業おめでとうございます

国際政治経済学部長　菅原淳子

卒業生の皆さん、おめでとうございます。在学中の数々の思い出を胸に、二松学舎大学を巣立ち、新たな人生への第一歩を踏み出そうとしていらっしゃる皆さん、皆さんの前にはさまざまな可能性を秘めた道があります。どうぞ勇気をもってその道を進んで下さい。

在学中には、学びやさまざまな活動を通して視野を広げ、たくさんの経験を積まれたことでしょう。それらの一つ一つが、これからの人生の中で貴重な経験として意味を持ってくることと確信しています。皆さんはこれから、自らの人生を自身の力で切り開いていくことになります。人生の中でさまざまな問題や困難に直面した時、自らの力で解決方法を見出すことを求められることと思います。そこで問われてくるのは、主体的に取り組む力、自ら考える力だと思います。現代のように情報が溢れ、社会が急速に変化している時代の中で、皆さんには自分を見失うことなく、周囲に振り回されることなく的確に判断を下していけるよう、努力していただきたいと思っています。

さて、近年の経済事情の中で、回復傾向にあるとはいえ今年も厳しい就職難の一年でした。皆さんにとっても就職活動は苦い思い出かもしれません。必ずしも思い通りの就職ができたわけではないかもしれません。しかしどのような場にあっても、社会の一員として何らかの形で社会に貢献できると考えていただきいと思います。そして皆さん、どうぞ人生を長いスパンで考えてください。社会に出てから、再び学びなおすことも可能です。さらにできれば、「生涯を通して学ぶ」という姿勢を持っていただきたいと思います。

さまざまな可能性を持っていらっしゃる皆さんの前途が、希望にあふれていることを祈って、贈る言葉といたします。

「正しいこと」が
いつも正しいとは限らない。
土佐秀里

卒業してもたまには
遊びにきて下さい。
松本健太郎

謙卑、祈禱、清貧、是無言
芹川哲世

千里之行 始於足下
馬耀

みんな元気で、
一つのことを頑張ってください。
森武志

사랑해요!
표
(福田今日子)

誠実に生きてください。
そして挫けないでください。
磯水絵

わるくれどめひもおしまめもしき
見さらむこのすいかいなりき
ホームカミングデーで
山崎正伸

紀貫之
ふるさとは昔のままに見えつれど
山の端ならでいづる月影
多角的に見ると新しい発見より安心が！
ご活躍をいつもお祈りしています。原中勝征

人生は、みんないろいろ。
へこたれず、明るく、強く、
生きて行きましょう。
(from 島田泰子)

お幸せに
松本直樹

たまには近況報告でも送って
下さい。僕も必ず返事を書きます。
五井信

楽しい人生を!!
小山聡子

「もはやそれは、新しい物語り。
別の長い物語りでなければならない。」
(大西巨人『神聖喜劇』)
山口直孝

文学部

四年生のゼミナールを担当された先生方から
餞の言葉を頂きました

苦あれば楽あり
中川柱

希望
遠邊子好

明るく楽しく
元気よく！
増田裕美子

人には添うて見よ。
稲田篤信

見て考えて動く
森野崇

下の帯の道は方々別るとも行きめぐりても逢はむとぞ思ふ（古今集 紀友則）
帯の両端は別々の方向を向いていますが、最後は輝の刺で結ばれます。人間関係も同様で、些細なことに一喜一憂することがあっても最後はうまくいくのではないでしょうか。また出会えることを願っています。五月女 肇志

正直の頭に神宿る
大熊吉次郎

感謝に敵なし
反省に終りなし（佐藤啓二）
林講太郎

想い出を大切に！
谷口貢

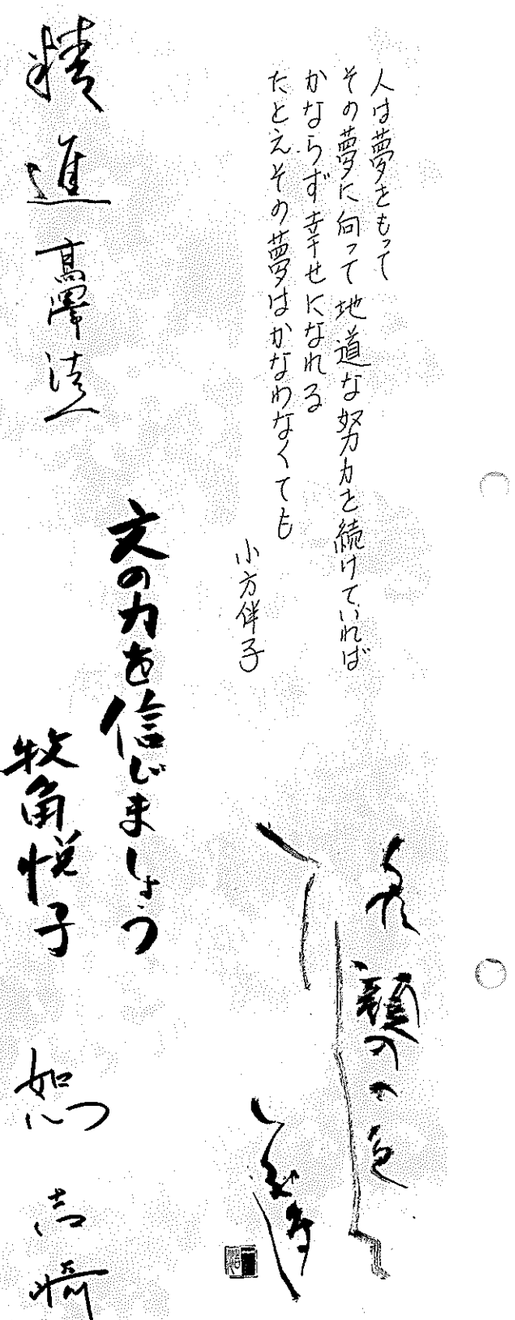
草木萌動
江藤茂博

善とか悪とかいうあらゆる名称は、比喩なのだ。
これらは何も語らない。ただ目くばせしている。
名称を知り究めようとする者は、愚かなだ。
(ニーチェ)
瀧田浩

Way to go!
白井雅彦

人は夢をもって
その夢に向って地道な努力を続けていれば
かならず幸せになれる
たとえその夢はかなわなくても
小方伴子

不撓不屈
大地武雄



文学部

四年生のゼミナールを担当された先生方から
餞の言葉を頂きました

文の力を信じましょう
牧角悦子

不羈獨立
伊藤晋太郎

生而不知學一不幸也學而不
遇賢師友二不幸也遇賢師友
而不能其要領三不幸也
町泉寿郎

いつまでもチャレンジ心を
忘れないで！
武永尚子

如心
吉村一衛

卒業おめでとうございます
本多峰子

辛い時こそ目線を上げて！
白石まりも

社会 おめでとうございます
法 おめでとうございます
土屋茂

君達と一緒に勉強できて楽しかった。
水本義彦

御卒業おめでとうございます
岩田幸訓

元気でまじめに働いて下さい。幸あるん生を願っています
岩崎愛一

これからが真の勉強のスタートです。
河原田有一

先手必勝
孫谷武彦

国際政治経済学部

四年生のゼミナールを担当された先生方から餞の言葉を頂きました

日々の営みを丁寧に
押野洋

先は自から歩くる者を助く
星敏夫

先敗は成功の始まり
田端

GOOD LUCK IN your new life.
ファルヴォ A.R

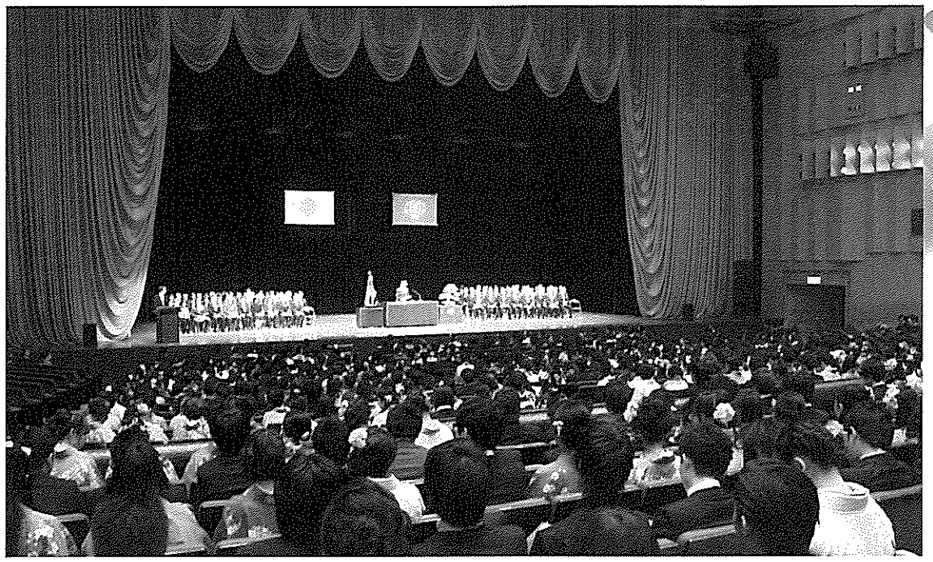
ご卒業おめでとうございます。
いくつになっても勉強です。
飯田幸裕

自信をもって進んで下さい、ご活躍を祈ります
中山政義

自信をもって常にベストをたくして下さい。
手島茂樹

ご卒業おめでとうございます。
ゆかいなことをまじめに。
高野和基

平成25年度 卒業式



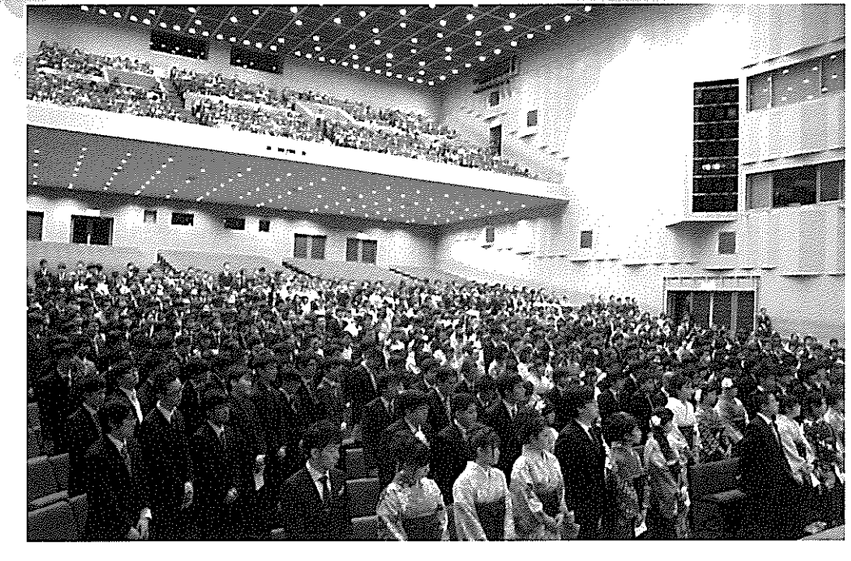
平成二十六年三月十七日（月）、中野サンプラザホールにおいて、平成二十五年度二松学舎大学学位記授与式（卒業式）が挙行されました。着飾った卒業生たちが会場前に集合し、友達同士や親子で写真を撮る風景があちらこちらで見られました。

午前十時、開式宣言に始まり、国歌斉唱、学務局長による学事報告に続いて、文学部卒業生に学士（文学）、国際政治経済学部卒業生に学士（国際政治経済）の学位記・卒業証書が授与されました。

国文学科・中国文学科・国際政治経済学科それぞれの成績最優秀者には、中洲賞として賞状と賞品が授与され、その後、教育職員免許状が伝達されました。

続いて渡辺和則学長の告示、水戸英則理事長・神津賢一郎松苓会長の祝辞、祝電披露、送辞、卒業生代表の答辞、校歌斉唱と進行し、厳粛のうちに卒業式は終了しました。

卒業生の皆さん、ぜひ自分の夢を大切にして粘り強く仕事に取り組み、社会人として活躍されることを願っております。



祝卒業

平成25年度 卒業パーティー in 帝国ホテル 孔雀東の間

平成二十六年三月十七日（月）、午後二時より帝国ホテル「孔雀東の間」において、平成二十五年度卒業パーティーが開催されました。

パーティー会場ではゼミの先生を囲んでの写真撮影や友との語らいの楽しい時間が瞬く間に過ぎ、終了後は立ち去りがたく別れを惜しんでいる姿が見られました。

卒業にあたり、新しい人生への、希望に満ちた門出に胸膨らませている学生三名に、四年間学んだ学生生活を振り返り、現在の心境及び感想等を語っていただきました。

素晴らしき日々に感謝して

文学部国文学科
越川莉加

四年前の私は、国語教員になりたいという思いはあるものの、自分に自信がなく、学費の工面も厳しかったため、高校三年の春頃まで大学進学自体を迷っていました。そんな私が進学を決めたのは、私と境遇が似た恩師に背中を押していただいたからです。その時の恩師の言葉で心に残っているのは、「やってもいないのに、できるか、できないかなんて分からない。大事なことはやるか、やらないか」という言葉です。

人から決められたことは、どうしても人のせいにしてしまいがちです。しかも生活環境となれば、自分の力ではどうにもならないと決めつけてしまいます。しかし、それは言い訳です。恩師は、そうやって逃げても良いが、自分の人生なのだから、後悔しない選択をしなさい、と教えてくださいました。私はアルバイトをしながら進学することを決め、恩師は高校卒業後も私の絶対的な理解者になってくださいました。

学費を全て自己負担しながら、二時間以上掛けて通学するということは、実際は思っていた以上に大変なことでした。そのような中でも、こうして四年間を無事に終えることができるのは、父母会や大学の奨学金をいただけたことや、白井先生をはじめとした諸先生方、学生支援課や教職支援センターの先生方、ともに切磋琢磨した友人たちに支えていただいたからです。ここにお世話になった全ての方々を挙げることはできませんが、多くの支えによって、ここまで来ることができました。この場をお借りして感謝申しあげます。

私にとっての大学生活は、教員になるという目標と、この人の元で学びたいと思える先生に出会えたことで大変充実した毎日でした。特に私の転機となったのが、白井先生との出会いでした。一年次の「古文演習」の授業で、その巧みな話術と豊富な知識に衝撃を受け、是非とも先生の技術を盗みたいと、二年次にはご担当の文学史の授業を受講し、さらに白井ゼミナールに所属するに至りました。同時に、白井先生が古文を担当する教員採用試験対策講座も継続受講していたため、結果、四年間を通して先生には大変お世話になりました。

また都心に校舎があるという恵まれた環境は、定期券を利用して東京を探索することができるため、とても魅力的でした。

一年次に初めて生で観た歌舞伎は、動きの無い教科書の写真に比べて躍動的で迫力があり、東京まで学びに来た価値はここにあったのだと感動したものです。そのことをきっかけに、白井ゼミで行なっている歌舞伎鑑賞教室に参加するようになりました。また、無知な私にとっては白井ゼミに所属し、先生の案内で東京を巡れる「遊山」がとても新鮮で、刺激的でした。経験しなければ、感動することはできません。ましてやそれを伝えることなどできません。だからこそ、教員になるまでに少しでも経験しておきたいと思っていました。そのため、白井先生の元で楽しみながら知識を身につけることができた日々は、とても充実した素晴らしいものでした。

四年次には、教育実習で母校の生徒たちに授業をし、教えることの難しさを実感しましたが、目の前で真剣にノートを取る彼らに刺激を受けた三週間でした。私自身、日々反省することばかりでしたが、恩師や指導教諭をはじめとする諸先生方に熱心にご指導いただき、多くのことを学ばせていただきました。最終日には生徒から手紙と色紙をもらい、恩師からも激励の言葉をいただき、教員になりたいという気持ちがより一層強くなりました。

私は四月から千葉県立高等学校の教員になります。教員には、生徒を導いていく責任があります。私がそうしていただいたように、生徒が自信を持って確かな一歩を踏み出せるように、背中を押せる教員になるために、努力してまいります。

基礎固めの四年間

文学部中国文学科
岩田麻愛

第一志望の国立大学の受験に失敗した私は、「浪人して再挑戦するだろう」という周囲の予想に反して、二松學舎大学に入学することを決めました。二松學舎には「日本漢学専攻」があったからです。他の私立大学では設置していない分野ゆえ、面白そうだと思いました。

私は人を押しのけて自分をアピールすることが苦手なので、将来は専門知識を活かした仕事に就きたいと考えていました。そのためには、「これができる」という切り札を持たなくてはなりません。入学後「とにかく一番になること」を目標に掲げました。すべての課題に真剣に取り組む過程で、切り札のきっかけが見つかるかもしれないからです。日頃の講義は、専攻分野でも一般教養でも、遅刻したり休んだりせずに最前列で聴き、ノートをとりながら自分なりの「問い」を見出すことを心がけました。「問い」を持たないと卒論を書くことは難しいと思い、「なぜ?」「知りたい」から出発して「二松學舎で学んだからこそ得られた」と言えるものを身に付けたいという一心でした。このところ、即戦力となる学生を求める企業に応じて「大学で何を学んだか」よりも「アルバイトでどんな活躍をしたかが大事」と指導する大学就職課もあると聞きますが、幸い、二松學舎の現学長である渡辺和則先生は学ぶことを重視する方針を打ち出してくださっていました。母が「あの学長先生なら安心」と言っていたこともあり、私は社会情勢に流されることなく、学業を優先できました。

実際に授業を受けていると、高校までに習う漢文がいかに狭い範囲のものであるかを思い知らされました。教科書に載っている『論語』や唐詩だけが漢文学ではないと気付き、「漢文=堅苦しくてとっつきにくい」というイメージが覆りました。一方、日本人の手による漢文（日本漢文）では、中国の手法を受容しながらも上手く和文学と融合させ、独自の文化を作り上げていく過程がおもしろく、興味を持ちました。ゼミでは、漢籍目録カードのとり方と文献解読の方法を学びました。目録カードについては、その漢籍が出版された当時の背景等まで考慮しながら作成していく必要があることを、文献解読では白文を読み解いていく際の品詞の特定の難しさを知りました。時には、指導の高山先生の優しさに甘えて雑な作業をしてしまいそうになり、その怠惰な気持ちを抑えるのが大変でした。どちらも根気が要る作業ですが、「物事を地道にコツコツと続ける」ことが唯一の取り柄の私には、向いているかもしれないと感じました。

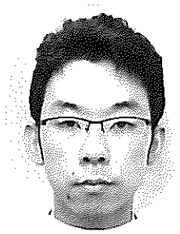
授業で基礎固めを試みる一方で、私は拓殖大学のモンゴル語の公開講座にも通いました。定員割れで初級止まりとなったことが残念で、東アジア文化圏に特化した二松學舎でモンゴル語が学べればいいのにと思ったことでした。

四月から私は、名古屋大学大学院文学研究科に進みます。名大はモンゴルとの関係も深いので受験したのですが、入試面接で「せっかく中国文学の聖地（メッカ）で学んでいるのに、地方に出たらテンション下がらない?」と言われました。試験官に「基礎はあるね」とも評され、二松學舎の外部評価の高さを知ると同時に、「基礎的学問を学び、学問の基礎的な土台を固めるための勉強をする大学」の学生として胸を張っていいのだと嬉しくなりました。

私の切り札はまだ具現化していませんが、入学当初の目標を達成したことで、「国立大受験に失敗しても、自分で選んだ大学で目に見える結果を残せる」という証明にはなったかもしれません。

指導してくださった先生方に深く御礼申し上げます。

世界の中の日本



国際政治経済学部
根本　智

まさか私がこのようなところに寄稿しようとは・・・入学式で特に理由もなく、雰囲気に圧倒され、震えていた自分の姿がまるで昨日のように思い出されます。時間の流れは早いもので、四年間の大学生活に終幕が訪れようとしています。思えば、私が二松學舎大学国際政治経済学部に入学を決意した理由は、漠然としており、「国際政治？面白そうだ」とふと思ったからにすぎません。真剣に学びたい、という思いを胸に入学された方々、申し訳ありません。正直、一年次の段階では、あまり具体的な内容ではなく、政治学、経済学、法学の基礎を学びつつ体系的に理解するもので、私自身の興味関心を惹きつけるほどではなかったのが実感です。しかし、二年次の秋セメスターから一気に、国際政治の深さと面白さへの扉が開いたように思います。やはり、卒業までお世話になる水本義彦先生との出会いが大きい影響を与えてくれました。二年次のプレップ・ゼミナールでは、「平和」とは何か、これをキーワードに討論をしました。慣れない討論に四苦八苦しながら意見を述べる、という経験は新鮮で貴重なものであり、大学生活の醍醐味をスタートさせました。様々な地域紛争について学び、果たして戦争がなければ平和と言えるのか？という根源的な問題については考えさせられました。あなたはどう思いますか？

三年次からはいよいよ本格的なゼミナールが始まりました。水本ゼミは少人数ならではの濃密、高度な討論ができるゼミであったと自負しています。先生自身の知識量に感服させられる日々が、嬉しくも悔しくも？ありました。歴史問題、領土問題、環境問題や外交が周辺国に与える影響などを考えていると、否が応でも、「世界の中の日本」という感覚が芽生えてきました。選挙においても外交問題が国民の優先事項になることはあまりありません。考えてみれば当然です。社会保障や財政の問題などの喫緊の課題が優先されます。

しかし、尖閣国有化などにより一気に外交問題に対する、国民の関心が高まりました。一見すると良いことであると思うでしょうが、メディアを始め一部の政治家が感情的になり、煽る場面が多くありました。しかし、国際政治を学んでいると、客観的にみる力が養われたと思います。常に相手の国の文化や宗教、歴史を踏まえ冷静に議論できる基盤が、大学生活を通して身に付いたと思います。卒業論文では、大平正芳元総理大臣について執筆しました。「世界の中の日本」という視点は彼から学びました。最早、日本一国の都合で世界がまわっているわけではありません。「敗戦国だから」という卑下の心は捨てなければなりません。日本こそが先頭にたって世界を動かすグローバルプレイヤーになるには、常に国際社会のなかにおいて、「日本」がどう見られているかを意識しなければならない、私はゼミや講義、そしてロールモデルとしての大平正芳から学びました。私は教育業界に進みますが、常に「世界の中の日本」という視点を忘れずにチャレンジ精神をもって、希望と不安が入り混じった社会に飛び出していきたい、そう思います。

ここで、私が感銘を受けた本を二冊紹介して、締めくくりたいと思います。

・福永文夫『大平正芳』中公新書　２００８年

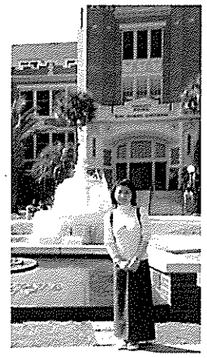
常に長期的視野を忘れず、慎重さと大胆さを兼ね備えた人物。今の政治に彼は何を思うのか？一読を勧めたい。

・服部龍二『日中国交正常化』中公新書　２０１１年

実は大平が主役の一人。日中関係は日日問題と言われるように、日本人にとって敏感な問題。この書を読み日中関係の将来を冷静に考えてみてはいかがか。

末筆になりますが、親身になって導いていただいた水本義彦先生のご指導に感謝いたします。

私の学生時代



国際政治経済学部　専任講師
金子智香

小学校1年生の時の担任の先生に憧れて以来、教師になることを志してきた。中学に入ると英語が教科に加わった。自分の母語である日本語以外の言語に触れ、英語に興味をもった。高校では、将来は英語を専門として教育に従事すると決めた。

大学の教育学部では、英語教育のみでなく、教育全体を理解したいという願いもあり、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得した。３回の教育実習では、昼間の教育実習に加えて、実習日誌への記入や一斉研究授業の準備などで眠れないハードな日々を経験した。アメリカの大学院進学に向けても、出願書類の一つである英語試験ＴＯＥＦＬの受験準備や、英語力と専門性の向上にも取り組んだ。また、夏休みにはアメリカの小・中学校を視察できるホームステイプログラムへも参加した。アメリカの大学院では、英語教授法を専攻し、英語を第一言語としない人々にどのように英語を第二言語もしくは外国語として教えるかについて学んだ。圧倒的な宿題や課題の量と格闘し、４か月間の教育実習を経験すると同時に、実際に自分の身を異文化に置き、異文化理解や異文化コミュニケーションへの洞察も深めた。

現在、二松学舎大学で英語教育に携わっている。教育全般と英語教育への興味が私の原動力であり、小学校1年生の時に抱いた志が現在の私の基盤となっている。学生時代は、自分の興味から生じた目標を達成するために励んできた。その過程において、大変なこともたくさんあったが、それ以上の喜びも味わってきた。目標とそれを支える動機が確固たるものであれば、その目標達成の過程において貴重な経験ができると考える。年齢等に応じて、立場や役割などが変わってくるが、学生時代というのは、人生の中でも、自己探求や自分の素地を固めるためにより多くの時間を費やすことができる贅沢な時間だと思う。学生の皆さんには、今を大切に、将来につながる学生時代を送ってほしい。

文学部　教授
瀧田　浩

早稲田大学に通っていた学部時代のことを、エピソード中心に書いてみたい。時代はバブル景気の直前ぐらい。時代錯誤のようでもあったし、今の学生ともかなり違っていたので、結構面白く読めるのでは、と思う。

形式主義を軽蔑し、大学の入学式にGパンで行った。成人式にもGパンで行くと言ったら母親に止められて、行くのをやめた。散髪も髭を剃るのも年一回ぐらいだった（欠けた前歯も直さなかった）。もともと音楽は大好きだったけれど、大学受験期に続いて封印し、大学受験の時よりも真剣に勉強しようと思った。野球の早慶戦やラグビーの早明戦で愛校心をあらわに盛り上がる学生たちの稚さを嗤い、自分は一度も行かなかった。極力アルバイトをせずに済まそうと、支出を切り詰め、昼食は母親に作ってもらったおにぎりを食べて、冷水器の水を飲んだ。友人はごく僅か、恋愛もしなかった。

本はノルマを作って読んだ。古今東西の古典作品を読むようにした。一回きりのとても大事な自分の人生が現代の価値観に限定されてしまうのがこわかった。ノルマは例えば、四月から五月の通学時間で漱石の小説を全部読むとかいうもの。長期休暇中は、一回につき最低五〇頁は読み、それを一日に三セット繰り返す。そんな読み方だから、学部時代に読んだ本は多いが、残念ながら、細部まで覚えている本は実に少ない。

このようにひとりよがりに過ごした学生時代の私の愚かさを形容する言葉はたくさんあるし、身についた勉強も少なかったと思う。他からの影響をもっと受けた方が、人生は広がり、豊かになったのだろう。でも、自分で考えられる限りのことを実践してみたのは、たぶん良かった。人生は歴史や環境や他者との関係の中で作られる部分が多いが、それでも自分の意志と努力で切り開いていく部分もかなり残っているのだ。

私の学生時代は、曲がりくねった私だけの道をふらふらと自分の足で歩み始めた頃だったのかなと思う。

キャリアセンターだより㉞

【平成二十五年度卒業生のご父母の皆様へ】

卒業生のご父母の皆様におかれましては、ご子息ご令嬢のご卒業を心よりお喜び申し上げます。

卒業生の皆様におかれましては、それぞれの進路におきまして、更なる成長並びにご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。

また、卒業後におきましても就職に関する相談は、随時受け付けておりますので、いつでもご連絡ください。

【平成二十六年度を迎えて】

さて、平成二十六年度の就職活動は、昨年十二月一日に企業の広報活動が解禁となり、本年四月一日より採用選考活動が解禁となります。本学の学生におきましても毎日のように学生から、就職に関する相談、エントリーシートの添削や模擬面接等、を受けており、いよいよ就職活動も本格化してきたな、といったところでしょう。しかしながら、このように相談等に来る学生ばかりではありません。キャリアセンターでは例年十一月に三年次生の卒業後の進路に関する個人面談を実施しておりますが、未だに面談を受けていない学生＝キャリアセンターに来たことのない学生もいます。今からでも結構ですので、是非ともキャリアセンターへ来課するようお伝えくださいますようお願い申し上げます。この面談は、大学卒業後の進路全般にわたってのものなので、「公務員を目指しているので、民間企業への就職はしない。」あるいは「大学院への進学を目指している」といった学生であっても、相談等の対応をさせていただきたいので、是非ともキャリアセンターに行くようご指導くださいますよう、重ねてのお願いとはなりますが、よろしくお願い申し上げます。

さて、本学における平成二十六年度の就職支援活動について簡単にご案内申し上げます。いずれも詳細な日程は未定ですが、決定次第、別途ご案内申し上げます。

まず、新四年次生に対しましては、学内で合同企業説明会を実施いたします。そのほか、昨年実施して、成果を挙げた「就職力アップ講座」を次年度も開催するよう計画しております。また、就職活動中における個別の相談等につきましても随時受け付けておりますのでご利用ください。

また、新三年次生につきましても、個別面談や就職特別講座をはじめとした各種講座等を実施しますので、是非ともご利用ください。また、平成二十五年度に開講しました、公務員試験準備講座に引き続き、いよいよ公務員試験対策講座を開講します。公務員を希望する三年次生は、有料の講座ではありますが、是非受講してください。

なお、一・二年次生においても、就職等に関する相談や、公務員対策準備講座等を実施しますので、是非ともキャリアセンターをご利用下さるよう、学生の皆様へご指導いただければ幸甚に存じます。

また、これらキャリアセンターによる就職支援の取り組みや、インターンシップについて、簡単など案内の小冊子をご父母の皆様用に作成いたしました。新年度のガイダンス時に学生を経由して配付いたしますので、是非ご覧ください。

最後になりましたが、平成二十五年度も父母会からのご支援により、キャリアカウンセラーの配置をはじめ、日本語検定試験等を実施して参りました。この場をお借りしまして、深く御礼申し上げます。

企業研究セミナー

２０１４年２月12日㈬～14日㈮
於　九段校舎13Ｆラウンジ

短期海外語学研修　参加学生募集のご案内

今年で十八回目を数える本研修は、北京大学における語学研修を通して中国語運用能力と中国の歴史・文化に対する理解を深めることを目的とした二松学舎独自のプログラムです。少人数制のクラスで、北京大学講師のきめ細やかな指導を受けながら、語学のブラッシュアップを図ると共に、中国歴史文化講座、名所旧跡の参観や京劇、雑技鑑賞などの中国文化に触れることができます。目覚ましい発展を遂げる中国の首都・北京で、これまで学んできた中国語を試しながら、中国に対する理解を深めることが出来ます。添乗員付きで、本学の専任教員が全日程を引率するため、安心して研修に集中できるこの機会を是非ご活用下さい。

期　間：二〇一四年八月七日(木)
～八月二七日(水)
二十泊二十一日
研修大学：北京大学（受入れ機関：北京大学歴史学系）
研修費用：三十五万円前後
募集人員：二十名
（最少催行人員十五名）

オーストラリア屈指の名門大学であるクイーンズランド大学（ブリスベン市）附属語学教育機関における本研修は、ホストファミリーや現地大学生とのコミュニケーションを重視した、本学学生のための特別プログラムです。ホームステイでは、現地の一般家庭に家族の一員として滞在することで、日本の生活習慣や文化との違いを肌で実感します。英語授業では、プレゼンテーションや現地大学生へのインタビュー等で実践的な英会話に取り組み、教室内外での様々なアクティビティでは、現地大学生との交流に加え、経済・文化等に関するゲスト講義、現地を代表する国立公園や動植物園の見学等を通して、オーストラリア固有の豊かな自然に触れ、多民族社会への理解を深めることができます。本学の専任教員が全日程を引率するので、安心のサポート体制です。これまで学んできた英語の力を実生活で試し、多文化社会への柔軟性を磨ける、この機会を是非活かして、視野を広げ新しいことに挑戦してください。

期　間：二〇一四年八月十六日(土)
～九月七日（日）
二十一泊二十三日
研修大学：クイーンズランド大学（附属語学教育機関(ICTE-UQ)）
研修費用：五十万円前後
募集人員：十九名
（最少催行人員十名）

問合せ先は、ともに
二松学舎大学
学生支援課
〇三―三二六一―
七四二七

学生相談室だより84

カウンセラー　森岡さやか

「相談室」ときくとどのようなところをイメージされますか？

全く違う職種の人と話していると、「カウンセリングって何をするの？」「どんな相談が多いの？」と訊かれることがあります。相談室と接点のない人にとって相談室という場所は、私が思っている以上に分かりにくい世界なのかもしれません。

家族でも友だちでも教員でもなく、相談室のカウンセラーに相談する理由は、来談者それぞれに様々です。日常生活の人間関係に影響しない相手に相談したいという人もいるし、普段の生活の場と相談する場をしっかり区切ることが重要な人もいます。大切な人を心配させたくないからという人もいますし、専門家に話を聞きたいという人もいます。そばに居る人が、自分にではなく相談室に行って相談すると聞いたら、もしかしたら「なぜ私に話してくれないのだろう…？」とショックを感じるかもしれません。けれども、そばに居る人が信頼できないからではなく、このように様々な思いがあって相談室が利用されているのです。

では相談室は何をするところなのでしょう。気持ちを整理する、この先どうすればいいのか考える、自己理解を深める…これも人により時により様々で、いろいろな説明の仕方があると思います。ある友人との会話で、「それってつまり親友を作ってあげるっていうこと？」と聞かれました。もちろん、カウンセラーが親友になってあげるという意味でも、友だちを紹介してあげるという意味でもありません。本人が今持っている対人関係を、より豊かにしていくための取り組みが、カウンセリングであるという意味です。友人のその言葉は全く思いもよらぬ表現だったけれども、確かにそんな捉え方もできるかもしれないと、かえって私の方が教えられたような気がしました。

平成26年度二松学舎大学日程表

年	月	日		月	日	日　程
平成26年	3	31	～	4	5	ガイダンス
	4	3				入学式
	4	4				新入生歓迎式典
	4	7	～	7	28	春セメスター授業期間
	4	20				前期授業料納入期限
	4	29				(昭和の日)：授業実施
	5	24				父母会定期総会
	5	下旬				定期学生総会（予定）
	6	21	～	6	22	文化祭
	6	28	～	6	29	体育祭
	7	17	～	7	18	補講期間
	7	29	～	8	4	試験期間
	8	5	～	9	14	夏期休業期間
	9	8	～	9	11	ゼミ合宿期間
	9	15	～	1	24	秋セメスター授業期間
	9	15				(敬老の日)：授業実施
	9	30				春セメスター学位記授与式

年	月	日		月	日	日　程
平成26年	10	10				創立記念日　137周年
	10	13				(体育の日)：授業実施
	10	20				後期授業料納入期限
	11	1	～	11	3	学園祭（九段）
	11	24				(勤労感謝の日)：授業実施
	12	25	～	1	7	冬期休業期間
平成27年	1	22				補講期間
	1	26	～	1	31	試験期間
	2	5	～	2	6	卒業研究面接試問（文学部）
	2	9	～	2	10	修士論文面接試問
	3	初旬				卒業・修了者発表
	3	中旬				ゼミ登録許可者発表（文学部） 進級者発表（国際政経）
	3	16				学部・大学院　学位記授与式（予定）

学生顕彰報告

個人（書道）

大野　純奈さん
第65回毎日書道展
漢字部Ⅰ類　入選

伊藤　華子さん
第65回毎日書道展
漢字部Ⅱ類　入選

沖田　真耶さん
第30回読売書法展
入選

駒形　優香さん
第30回読売書法展
入選

櫻井　美緒さん
第30回読売書法展
入選

藤松　理恵さん
第30回読売書法展
入選

松澤　柚香さん
第30回読売書法展
入選

山田　優果さん
第30回読売書法展
入選

荒木　義司さん
第42回全書芸展
入選

酒井　麻衣さん
第42回全書芸展
入選

内田　智也さん
第42回全書芸展
入選

個人（短歌）

吉田　直生さん
第7回全日本　学生・ジュニア短歌大会
秀作賞

安藤　武礼さん
第7回全日本　学生・ジュニア短歌大会
秀作賞

高嶋　美咲さん
第7回全日本学生・ジュニア短歌大会
秀作賞

深沢　美早季さん
第7回全日本学生・ジュニア短歌大会
秀作賞

中島　萌さん
第57回千葉県短歌大会(学生の部)
天賞

松井　秀之さん
第57回千葉県短歌大会(学生の部)
地賞

課外活動団体助成報告

狂言研究会

「第三十四回自演会」
学外発表会ポスター印刷費助成

茶道部

「茶道部創立四十周年記念茶会
・卒業記念茶会」
学外発表会会場借用費助成
学外発表会ポスター印刷費助成

ゼミ探訪

咲川ゼミナール

ここでは、咲川ゼミナールの紹介をさせて頂きます。咲川ゼミには現在三年生が八人在籍しています。まだ出来てから一年目のゼミナールのため、上級生がいないというデメリットがありながらも、一年間勉学に励んできました。

どのような勉学に励んでいるかと云うと、主に経済発展についてです。急激なアジアの経済発展の原因を推測し議論したり、データを元にそれぞれ毎週発表を行うなどの活動をしてきました。

学外活動として、昨年の夏には自動車工場へ行き、クルマの出来る工程を見学しました。また、咲川先生が他大学との勉強会をセッティングしてくださったりと、その内容は様々です。

人数の少ないゼミナールである分、ゼミ生同士の仲も良く楽しい雰囲気ではありますが、少人数ということは、裏を返すと1人1人の行動が良くも悪くも目立ちます。

来年度は後輩が入ってくることもあり、さらに良い行動、良い行いを心掛け、良い先輩として見本になれるようゼミ生一同、頑張ります。

国際政治経済学科
三年　浅野　航大

高山ゼミナール

高山ゼミナールでは、中国書誌学について学んでいます。中国書誌学とは、漢籍古書の出版の形式や、内容分類等について研究する学問です。

本ゼミナールでは、これらの中国書誌学を学ぶため主に書籍の実物に関する調査方法の習得と、書籍目録や解題の読み方の訓練を中心に発表形式で学習をしています。

三年生は二人しかいないため、必ずどちらかが発表することになるので少しハードなものでしたが、そのおかげで着実に基礎を身に付けられたように思います。

ゼミの授業以外にも毎年夏にゼミ合宿を行っています。

日程は三泊四日で、今回は三・四年生合同で行いました。場所は長野県戸隠高原で、自然に囲まれた中で集中して学習に取り組むことができました。普段はゼミで顔を合わせることのない四年生と共に過ごす中で、学習面はもちろん学習面以外でも刺激を受け、学びの多い充実した合宿になりました。

卒業研究は書誌学に関するものだけではなく、各自が興味を持ったことについて研究、制作することができます。幅広い研究内容に対しても、高山先生はしっかりとサポートやアドバイスをくださるので、学生はしっかりと自分のやりたい研究を進めることができます。

中国文学科
三年　森　拓也

お知らせ

平成二十六年度 父母会定期総会開催について

左記の日程により、平成二十六年度二松学舎大学父母会定期総会を開催いたします。

当日は講演会を予定しております。

日時・平成二十六年五月二十四日(土)
場所・九段一号館
内容・平成二十五年度事業報告並びに決算
・平成二十六年度事業計画並びに予算

新二年次生～新四年次生の会員の皆様には、平成二十六年度定期総会のご案内と出欠票（委任状）をこの父母会報第八十四号に同封しておりますので、ご確認願います。

また、準備の都合上、ご出欠を同封の出欠票（委任状）で四月二十五日(金)までにお知らせください。

定期総会資料につきましては、五月中旬に郵送にてお届けします。

平成26年度　地区別父母懇談会について

父母会事業計画の一環として、毎年地区別父母懇談会を開催しています。

平成二十六年度の開催地は、岩手県・東京都（九段校舎）・長野県（長野市・松本市）・愛知県・広島県・高知県・福岡県の会場を予定しています（日程は左表をご確認下さい）。

この地区別父母懇談会は、大学の現況、履修の状況、学生生活の状況、就職活動の支援等についての説明があります。

全体説明終了後、個別相談を行っています。大学への質問及びご意見・ご要望などを大学関係者に直接話しができる機会です。この機会をぜひご利用ください。

フリー参加形式としておりますが、会員の皆様に改めて事務局より開催案内をお送りし、出欠の確認をお取りします。

万障お繰り合わせの上、ご参加願います。

平成26年度　地区別父母懇談会日程表

開催日	開催地区
6月22日（日）	岩手県（盛岡市）
6月22日（日）	福岡県（福岡市）
6月29日（日）	長野県（長野市）
6月29日（日）	高知県（高知市）
7月　5日（土）	東京都（本学九段校舎）
7月20日（日）	長野県（松本市）
7月27日（日）	愛知県（名古屋市）
7月27日（日）	広島県（広島市）

編集後記

卒業生のご父母の皆様、お子様の卒業、おめでとうございます。

本会報では、中野サンプラザホールで開催された厳粛な卒業式と、恒例の帝国ホテルで開催された華やかな卒業パーティー各々の写真を父母会役員で選び掲載いたしました。会場の雰囲気を感じていただき、卒業生とご父母の皆様にとって良き思い出の一つになれば幸いです。

卒業生一人一人が学生生活や就職活動等を通じて学び、苦労したことを自身の糧にして、更に飛躍され、日本社会に貢献されることを大いに期待し応援しています。

二〇二〇年東京オリンピック開催決定という喜ばしいニュースや冬季オリンピックでの若い世代の活躍に多くの勇気と感動を受け、明るい兆しが見え始めた一年でした。父母会運営も多くの方々のご支援・ご協力で大過なく乗り切ることが出来、役員一同、安堵しております。

今後も、大学としっかり連携し、厳しい社会に踏み出す前の学生生活が充実したものとなるよう、様々な支援を続けていくために活動してまいります。

ここ九段でも四十数年ぶりの大雪や厳しかった今冬の寒気も暫く緩み、また千鳥ケ淵の桜が今年も学生たちを歓迎してくれています。